

## 第 11 回南アルプス世界自然遺産登録学術検討委員会会議録

- 1 日 時 平成 24 年 6 月 25 日（月） 14 : 00 から
- 2 場 所 静岡市役所静岡庁舎本館 3 階第一会議室
- 3 出 席 者 （委員） 佐藤博明委員、増澤武弘委員、狩野謙一委員、熊野善介委員、  
中村羊一郎委員、板井隆彦委員、高橋真弓委員、湯浅保雄委員、  
三宅 隆委員、  
（オブザーバー） 鈴木康平氏、中村 仁氏  
（事務局） 浅井喜代志 環境創造部清流の都創造課長  
秋本 文男 参事兼統括主幹（清流の都創造課）  
興津 卓伸 副主幹 （清流の都創造課）  
保坂 和範 主任主事 （環境総務課）
- 4 傍 聴 人 0 人
- 5 次 第 （1）開 会  
（2）挨 拶  
（3）議 事  
（4）報 告  
（5）閉 会
- 6 議 事 （1）平成 24 年度南アルプス学術調査の検討について  
① 南アルプス（静岡県側）ジオツアーコース調査策定業務  
② 南アルプス・井川地域生態系・生物多様性（動植物）把握調査
- 7 報 告 （1）ユネスコエコパーク登録に向けた取り組みについて  
（2）平成 24 年度南アルプス世界自然遺産登録推進協議会総会及び講演  
会の開催について

(3) リニア中央新幹線整備計画のその後の動きについて

(4) その他

## 1 開 会（浅井課長）

開会にあたり、出席者が委員の過半数を超え、会議が成立している旨、及び会議を公開とする旨の報告を行う。

## 2 挨 拶（佐藤委員長より）

## 3 議 事

(1) 平成 24 年度南アルプス学術調査の検討について

(佐藤委員長)

冒頭、議事録署名人に湯浅委員を指名し、議事に移る。

平成 24 年度南アルプス学術調査の検討にあたり事務局に説明を求める。

(事務局説明要旨)

- ・南アルプス世界自然遺産登録推進協議会（以下「推進協議会」という。）の総合学術検討委員会で評価選定された南アルプスの価値を、今年 2 月、文部科学省、環境省に報告したこと。
- ・小笠原諸島の世界自然遺産登録を受けて、国では次の暫定リスト掲載候補地を検討する動きが噂されていること。
- ・昨年、ユネスコエコパークへの登録に向けて、ユネスコ申請様式に基づく記載項目及び、南アルプス・井川地域の自然資源の活用を図る教育プログラムの調査を実施したこと。
- ・これらを踏まえ、本年度はユネスコエコパーク教育プログラムに資する調査として、南アルプス（静岡県側）ジオツアーコース調査策定業務を提案させていただくこと。
- ・南アルプスでは、長野県側の中央構造線エリアが日本ジオパークに認定されているが、本年度内に 4 年ごとの再認定審査が実施されること。

- ・再認定後の中央構造線エリアジオパークの運営主体は、日本ジオパーク委員会の方針により、長野県関係機関や民間企業等で組織する団体に移行されることが、概ね決定していること。
- ・推進協議会では、今後、糸魚川―静岡構造線エリアの日本ジオパークへの登録に向けて、検討する方針を決定したこと。
- ・これらを踏まえ、静岡県側のジオサイトの活用状況等について、狩野委員に説明を依頼。
- ・世界自然遺産登録に向けて、生態系・生物多様性分野における詳細調査を継続実施するとともに、ユネスコエコパークの教育プログラムを検討するための基礎資料として、井川地域に生息・生育する動植物の把握調査を実施し、ユネスコエコパーク及び世界自然遺産登録の推進に取り組んでいくこと。
- ・これらの調査を提案するにあたり、学術的見地からご意見をいただきたいこと。

#### ① 南アルプス（静岡県側）ジオツアーコース調査策定業務

南アルプス（静岡県側）ジオサイトの状況等について狩野委員より説明をいただく。

- ・糸魚川―静岡構造線の活用できるサイトは山梨県側に集中している。残念ながら、静岡県側の南アルプス周辺では、見応えのあるサイトが存在しない。
- ・ジオパークは活用することに価値がある。サイトを効果的に活用するためにはネイチャーガイドや、案内看板・パンフレットの設置等が必要となる。山梨県側（早川町）では、観察ガイドのパンフレットや案内看板が設置されている。
- ・中央構造線エリアは、日本ジオパークに登録されているため、長野県では広くサイトの活用に取り組んでいる。
- ・南アルプスには、多様なジオツアーコースを組み立てられる素材が十分存在しているが、活用するための課題として、アクセス面、公共基盤（案内看板やインフォメーションセンター等）の未整備、ネイチャーガイド等の人材不足などが挙げられる。

(佐藤委員長)

- ・土地所有の立場から、南アルプスのジオサイトについて意見を伺いたい。

(鈴木オブザーバー)

- ・点在するジオサイトをコースとしてどう組み立てるか。それにより活用の視野も広がるのではないか。また、見える場所を見やすく保存していくことも必要。

(増澤副委員長)

- ・南アルプスの静岡側には、縦にも横にも広くジオサイトが点在している。ツアーコースとしての距離を縮めるには、地域を絞りこんで検討していくことも必要。

(高橋委員)

- ・大谷崩れもジオサイトとしての価値は高いと思うが、観察のためには、登山道の整備も必要。

(佐藤委員長)

- ・市としても基盤整備について検討し、活用しやすい環境を整えてほしい。

## ② 南アルプス・井川地域生態系・生物多様性（動植物）把握調査

(三宅委員)

- ・クライテリア項目の調査を継続しながら、井川地域での調査をするとすると、調査期間が限られる中で、調査員の不足も懸念される。

(湯浅委員)

- ・植物の分野では、井川地域に限らず、シカの食害が深刻化している。調査したくても、そこに植物が生育していないという問題もある。

(熊野委員)

- ・井川地区でユネスコエコパークの教育活動を行うためには、関係機関や企業、大学などと地元の小学校・中学校等、市教委・県教委との連携した取り組みが必要。ガイドや調査、ツアー企画運営などに学生が参画すれば、相互にメリットもあるはず。

(佐藤委員長)

- ・ユネスコエコパークの教育プログラムを創り上げていく際には、コンセプトをはっきりと位置付けることが必要。ガイドブックやパンフレットを作成し、同時に活用していくことも必要だと感じるが、事務局の考えはいかがか。

(事務局)

- ・これまで世界自然遺産のクライテリアとして学術調査を進めてきたが、これらに加え、ユネスコエコパークでは、井川地域を含めたエリア全体の把握が必要と考えている。
- ・井川がどのような場所でどのような特徴があるのか。それを市民に伝えていくためにも、これまであまり調査がされていない井川地域の自然資源の把握に努めていきたい。
- ・調査の結果は、パンフレットやガイドブックの作成に繋げていきたい。
- ・リニューアルしたホームページ（しぜんたんけんマップ）では、いきものの発見情報を書き込みできるようになっている。調査結果と寄せられた情報とをうまく機能させて、井川地域で自然観察をする際の学習環境を整えていきたい。
- ・ユネスコエコパークの移行地域では、既存のエコツーリズムに加えて、地域資源を複合的に活用した教育活動を検討していきたい。

(三宅委員)

- ・ユネスコエコパークでの活用を前提に考えると、ある程度内容を精査して実施しないと期間的にも難しいと思う。

(板井委員)

- ・教育目的とした場合でも、子ども向きなのか、指導者向きなのか、その対象者によって調査の内容や方法も異なってくる。子どもには昆虫が人気であるように、その状況にあわせた付加価値をつけていかないと、ツアーとしての魅力もない。

(狩野委員)

- ・ジオサイトの活用を事務局がどの程度把握されているのか。一度、現地で視察を行い、今後のスケジュールや活用方針を検討してほしい。

(中村委員)

- ・ユネスコエコパークとの関わりを考えると、文化財課には、井川地域の伝統や文化に関する資料がたくさんあると思うので、それを活用してみてもどうか。

(佐藤委員長)

- ・ユネスコエコパークの教育プログラムを検討するにあたり、そのコンセプトをはっきりと位置付けて議論することが肝要なので、事務局で整理をお願いしたい。
- ・活用のためのパンフレット、チラシ、ガイドブックの作成についても検討をお願いします。
- ・こうした作業を進めるにあたり小委員会の設置についても検討をお願いします。
- ・検討の結果は次回の会議で報告をお願いします。

(事務局)

- ・ご意見を踏まえ、今後の学術調査の方向性や活用のあり方を整理し報告させていただく。

#### 4 報 告

(1) ユネスコエコパーク登録に向けた取り組みについて

- ・5月27日に開催された平成24年度推進協議会の総会において、平成25年2月までに文部科学省に国内申請する方針を決定したこと。
- ・静岡県（静岡市・川根本町）のゾーニング検討の進捗状況を説明。静岡市は6者と交渉を進めていること。
- ・川根本町と連携し、静岡森林管理署にも相談していること。
- ・8月までに地権者への同意を得て、3県あわせた仮申請書の作成を進めていくこと。

(2) 平成24年度推進協議会総会及び講演会の開催について

- ・総会承認議案のうち、第1号、第3号、第5号について報告。
- ・講演会1部では、日本ユネスコ国内委員会委員で横浜国立大学学長の鈴木邦雄氏より、ユネスコエコパークと地域活性化との関係について講演をいただいたこと。
- ・講演会2部では、綾の自然と文化を考える会の郷田美紀子代表より、国内では30年ぶり

に登録を目指す宮崎県綾町が取り組んできた、照葉樹林の森との共生した町づくりに  
ついて講演をいただいたこと。

- ・当日の参加者は約 300 人であったこと。今後も制度の普及を図っていきたいこと。

(3) リニア中央新幹線整備計画のその後の動きについて

- ・環境総務課保坂主任主事より、別紙資料に基づき報告。

(4) その他

## 5 閉 会

平成 年 月 日

議事録署名人

⑩